国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』 請求記号 863-201

ガラス使用

863-201

南嶋回日記

五月廿二日ゟ利
七月十七日迄社

変越志る事

廿二日此志海垣やく事越お須只
おゝき成土加海越造く瀬水越全入
数日火越たき焚迫く垣と事越
待遇く新ハおゝ皇社牛く汗し

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201
ガラス使用

得龜図

嘗我子芸遊び
之我と来

其形笠のごとく大き
四三人まわる指なし
先甲て黒隊文宋
ありて
玳瑁の如し

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』 請求記号 863-201
ガラス使用

人ハ粉骨社労我志のさて得変社
垣ハ已ぶ加之とても年中社用ハ
たらぬ垣清之進ハ瀬水銭汲く食を
和そ生味ひ思ひやらぬ恐今度垣
やき二人迄具し於ひ恐ハ
なりして垣を夜厳営む足なりけ
垣を富なんとあくこのたまき
廿三日加里得度をなし

廿四日今朝嶋人嶋義銭得たり是
をもちきたるこそ大きさ三人斗みて
甲ハ珉帽社文何り足たりまひ此義
なる加後ハ油あらぬ厳て是を志
油と寄肉ハ嶋人の食となる味ひ也
と云加免をもと云餅社と記のを此ハ
て清く又一種アカ、メ色赤く形ちれ
をもとのこ海上銭あらく銭志ハ人

とりみて突く味ひたかなれは然る事
有し句ひたかなれ合うしも志
英[羊]華に元鼃と云て
本草に南方に生るる大亀ハ
長さ一丈有人捕而食之と云
十五日 此日舩よりも営人とも大勢にて
山猫狩に出けるに[illegible]て此にれ
は舩乗なる小児狩にいらんとて

きのふ出たる猟に出しに出し[illegible]
て生捕たる猟犬なるに[illegible]形の[illegible]
黒くして鼠のしかく胴ハ短く尾
長きの如し 頭より尾先まて長さ一尺
計り営人二人して生時余にてもちかへる
[illegible]しもしてうしたる前て取られ由へ有
貴重にて尻尾作りて渡く[illegible]
しかりふ

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

ガラス使用

「おそひきや又何時かえん玉此
留士」と口まさしむ絵の煙もともかし
立れかるかしく籠かゝる時日も西の方に
むきたれそ急ぎまゝ山は今ぞ
美事は此山は西山と云亦籠峯
と云往古火氣ゆゑ此山は時々
籠絵かけく飯は炊くて似たる
故に名と云此山元年代成しかし

永正の比焼出くや汲とある亦
慶長年中にも焼ると云、而其此
免ひり七里余高サ三里斗りし
廿九日小の月にして
六月朔日不七日まで皆新なりし
夫此山は南海中にして西地は有る
新たなりけれは美度なるとも成く
何り、雲一二段何けく寛如たる段

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

ガラス使用

八丈譚之

風俗畧

世の髮なりくして
先丈ケ之御手數

九珍齋正當筆之

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』 請求記号 863-201
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

ガラス使用

九日に常人秋海棠の花を持ち
きたりけるか其頃のことを見て
大きくして花くき茎は朱の如し
桃青翁此句あり

　秋海棠西瓜の色に咲にけり

前ても花色にも西瓜あるそのむしかし
此花か盛り也にしか常人云
此花四季ともにありて絶ゆることなし

さる故寒暑二月より十月まで花さく
大きさ六七尺にもなる
十日　十一日　十二日
十三日近習する事なし
十四日は彼岸の中日にて魂祭なり
是又世代に加ふるなし　至りまきとも
五穀豊かにしく仏に供ふるにもあり
たゞちに南通ハ見事にしく草木雑

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

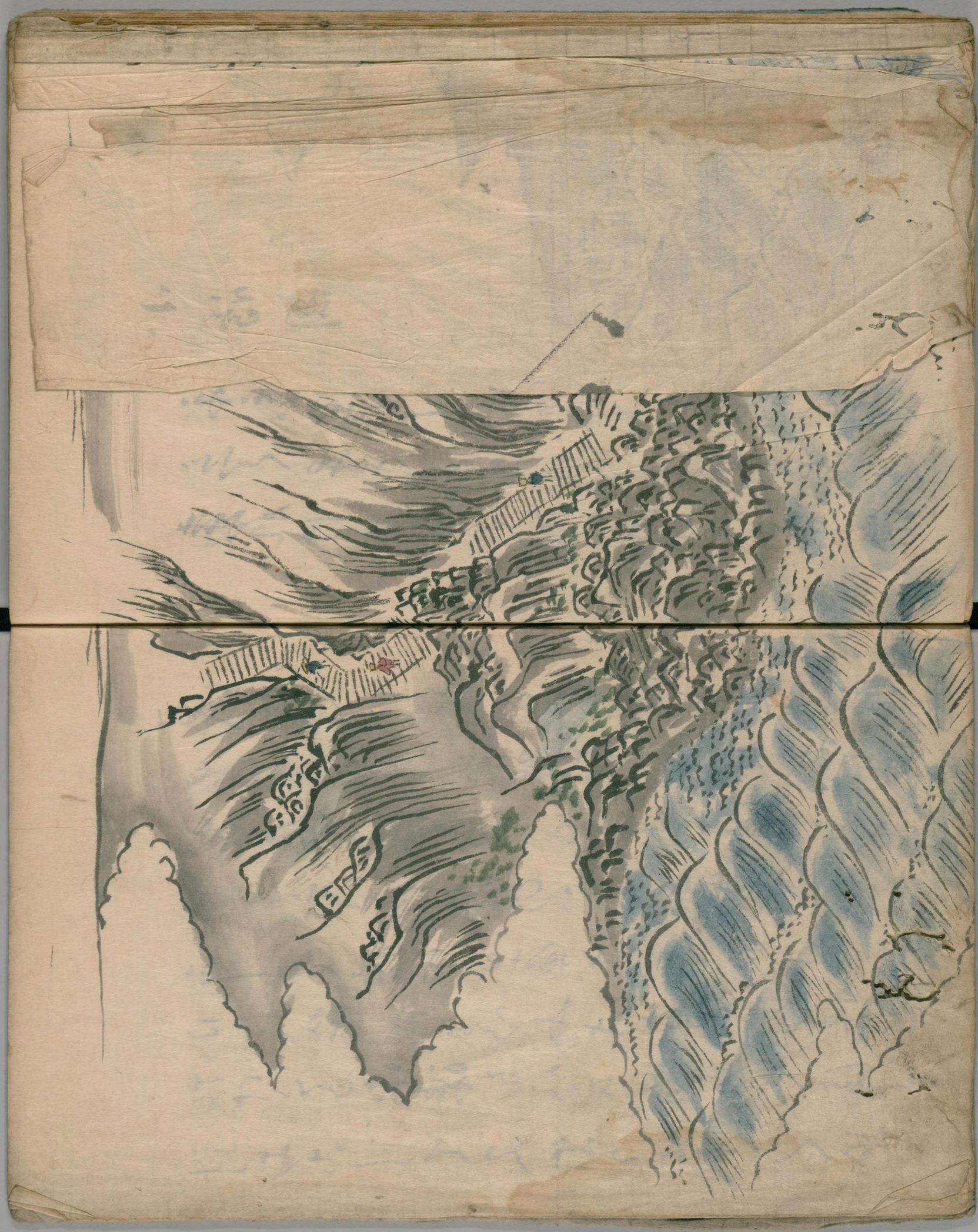
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

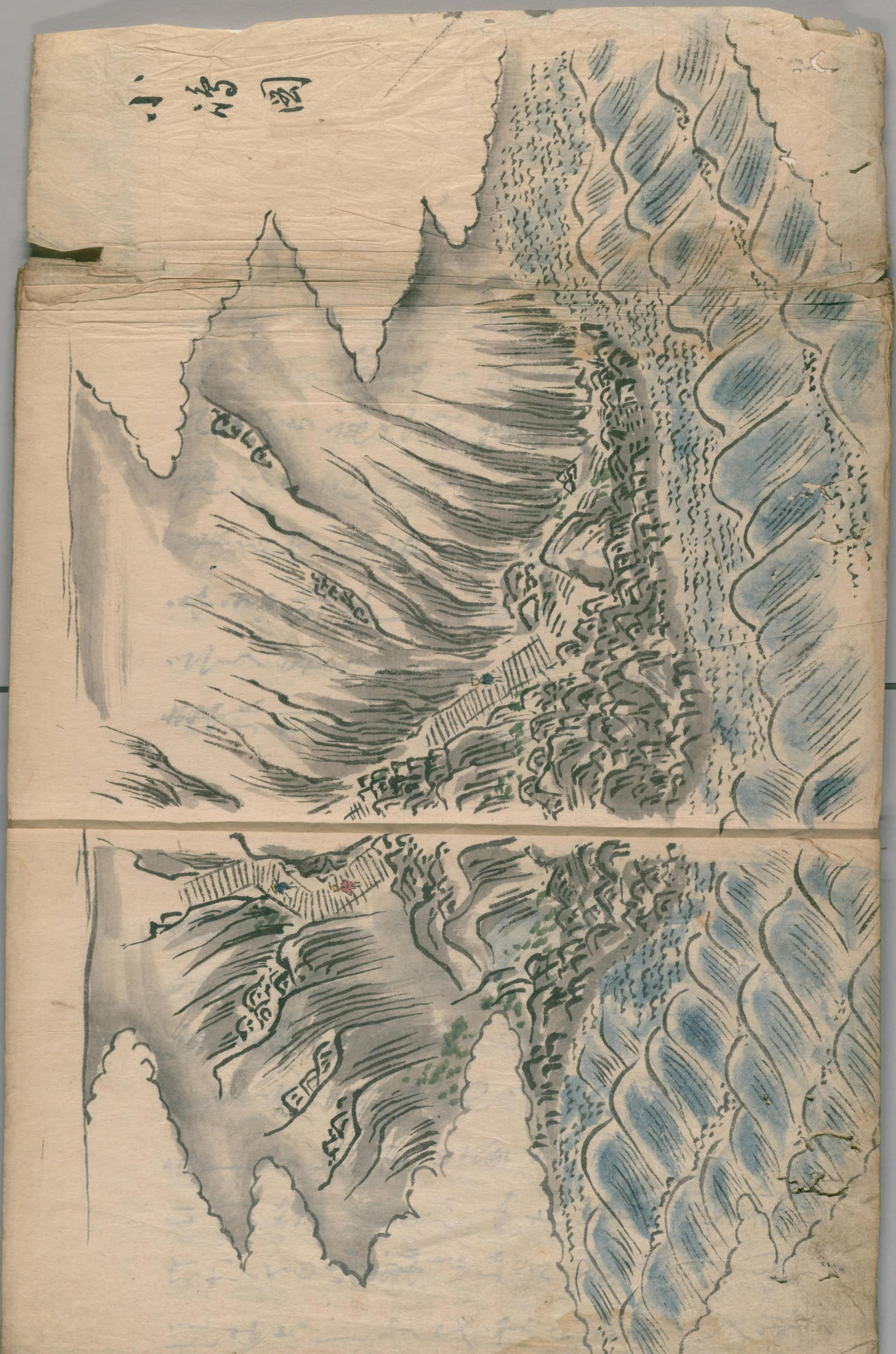
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

引おおして又乗り出すこと近き
たけさる水漲なれ芸物忌く渡る
日は稀成とかふ此嶺一面深沮
而して殊ゆる屋き道此し甚き
ここも知る須谷のうへ出る巖を
岩屋へ橋のけ渡して道と須
崖さ而此金邪なく日毎可
此棧へ引揚る只渡さへも眼

くるゆくそかりまるに男ハ室三河
线ゆなひ女ハ渡水线之外さく清むり
而ゆたどきて おりつまり此かりつまり無
嶋水なし岩皆ゆ清れ何きとも
清稀此用ゆたるへくもなし稀
家毎ゆ大かゆ线金さく高水线れ
ゆ駄ふて今线網日线経て何ゆ
なりまいハ多経へる故以文嶋なり

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

ガラス使用

863
201

南嶋回日記

国立国会図書館　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『南嶋回日記』　請求記号 863-201

ガラス使用